

大盛堂書店 2下通信

Vol.156

今号も進駿堂・鈴木さん、ミシマ社・渡辺さん
対談 2回目です。本企画に限り、毎週の
発行になります。

山本

〒150-0042

渋谷区宇田川町22-1

※「版元ドットコム」WEBサイトで
閲覧できます!!

対 談

「背伸びし続ける覚悟。 進駿堂中久喜
本店・鈴木店長とミシマ社・渡辺さんに話
を聞いた。」その②



鈴木毅さんプロフィール

進駿堂中久喜本店・店長。栃木県小山市郊外のロードサイド
に立地し、店内のPOPを多用した書籍・文房具の独自の展開
は、広く書店出版業界に刺激を与え続けている。



渡辺佑一さんプロフィール

今年10周年を迎える出版社・ミシマ社の最古参兵。営業チ
ーム所属。ひとり営業時代から「リーダー」を名乗っている。
(イラストはすべて鈴木さん画)



(大盛堂・山本) 万年筆の他にも何かありますか？



(ミシマ社・渡辺) 以前、中古カメラを販売されたこ
ともありますよね。



(進駿堂・鈴木) 2012年に「カメラ日和」【*12】
って古き良き銀塩カメラ【*13】の専門雑誌のフェアをやる
うと思って、で、やるならカメラも売ろうかと。フェアの見
栄えが良くなるし。



や一、よくやるなあと思って。しかも、完売されたん
ですよ。



1950年代から70年代のオリンパスPEN【*14】
とかやドイツのツァイスイコンコンチナ【*15】、あとポラ
ロイドのアルファ1【*16】で、だいたい2万円~3万円く

らい。全部が完売しまして。



すごいなあ。



比較的若い方が買ってましたよ。陳列して早々にうら
若き女性がツァイスイコンコンチナを買ってったのはビック
リしましたけど。



へえ。そんなことあるんですね。



これも万年筆と同じで、安心感ですね。カメラを自分
が買おうと思っても、中古で、しかも銀塩だったら、本屋じ
ゃなくて中古カメラの専門店で買いますよ。僕だって。けど、
カメラの出所と相談先がはっきりしてれば買うかなと。



そうだとってもですよ？いったいどこから仕入れたん
ですか？



「カメラ日和」を刊行している第一プログレスさんに
電話して「カメラを仕入れたいんですが、信頼できて、ノリ
の良さそうな中古カメラ販売店さんがありますか？」って聞い
たら、千葉の販売店を紹介してもらったんです。



千葉ですか。ノリの良さそうな千葉の。【*17】



そこに直接電話して、お店で中古カメラを売りたいの
で卸してくれないかと相談したんです。そしたらいいですよ
と軽~OKいただいちゃって。



わ。ほんと千葉だけにノリがいい、千葉だけに(笑)

【*18】(同意を求めるように) ね、山本さん。



中古カメラをウチで販売した時に、購入した方のアフ
ターケアを了解してもらって、店頭で「ご購入後の困ったこ
とはこちらに」とその販売店さん【*19】の連絡先を掲示し
てカメラを販売したんです。



そうか。そこ、超重要ポイントですね。



これも、僕自身ハマっちゃって、自分でも一台カメラ
買っちゃいましたけど。全機試し撮りは僕がやりましたから。
で現像して、その写真を掲示してね。



写真も掲示する。なるほど臨場感がアップしますね。



これは生涯でベストなフェアでしたよ。面白かった。
僕だけが。



もう仕事なんだか趣味なんだか(笑)



しかし、そうか。つまりスタッフに戦略や作戦を伝え
るだけじゃ独りよがり、むしろ経営者にちゃんと理解して
もらえてるから、そういう施策も打てる、ってことですよ。



まあ、僕が幸運なのは会社の方向と自分の好み、た
またま合っていたということですよ。うちの店にかんしては、
地域のニーズに応えつつ、それより少し上のものを提示して
いくことで良いなあと思ってもらおうとしていて、それは社
長も同じ考えです。



「少し上のもの」っていうのが興味深いです。



やっぱり、良い店と思ってもらうのは大変なことなん

ですよ。時には背伸びしないとできないもので、無理しないといけないものだと思うんです。それも短期的ではなくて長期的に。



なるほど。それは人の在り様としても重要ですね。



そう。簡単に見てくれを良くして高く売れても、それでは意味がない。一つ上のパーをあえて設定する、そして、本の状況とか売り方を考える、そうしないとその先はないですから。背伸び続けるというか、爪先で立ち続けるというか(笑)



バレリーナかよ。白鳥の湖かよ。



秘打かよ。【*20】



そっちかよ。



ところで、周囲の他店さんとの競合はどうでしょう？



あまり意識はしないですね。それより今までの書店の発想でないことをやろう、というのが強いです。ただ郊外店ですから、大きいショッピングモールによる街中の人の流れの変化は意識します。



……ところで私が進駈堂中久喜さんに営業へ伺うのは、その後、夜通し鈴木さんのお宅でゲームのFIFA【*21】をするというのが、主な目的であるんですけども。



その真顔やめてください(笑)冗談でしょう？



うちには酒も無いのにねー。【*22】



えーっと、だいたい店長が退勤する30分前くらいにお店に行って、自社の在庫チェックしながら店内でお客さんを観察するのですが。



在庫チェックする時は本気ですよ(笑)



もちろんですとも。新刊『わたしのじてんしゃ』『関西かくし味』もよろしく願います。【*23】



宣伝かよ。



営業ですの。で、そこで感じるの、来店したお客様が手ぶらで帰らないということ。だいたいの方が、本や雑貨など複数点数買っていく。ネクタイを締めたサラリーマン風の方が金曜の午後7時くらいに来店して何冊も購入する光景、最高ですよ。「ああ、この週末にこれを読むのを楽しみにしていたんだろうな」なんてお客様の心を勝手に推察してしまう。本屋って最高だなんて思える瞬間ですよ。



よく見えますね(笑)



本屋といえば。お客様が店内にてケータイで話している時、今どこにいるか相手に伝えることあるじゃないですか。その時、「今？進駈堂だよ」なんです。ただ「進駈堂」ですよ、まず仰られるのは。単なる「本屋」ではなくて「進駈堂」と認識されている。



おお、かっこいいですね。



「進駈堂」と言うだけで、そこがどこにあって、何を

売っている店か、本人も電話の先の人も共有しているということです。これは嬉しいですよ。



あと、お客様と向き合うのももちろん大事ですが、鈴木店長と話していて強く感じるの、まだ目に見えていないものに対して向き合ってるということですね。



スピリチュアルな感じですか。



なんだよそれ、人のこと「ムー」【*24】の愛読者みたいな言い方するのやめろよ。



でもすずきさん毎号チェックされてますよね？



なんで毎号『ムー民広場』【*25】チェックしてんの知ってたよ。



いやまあ、そういうことを言いたいんじゃない。なんていうか、「情報外情報」っていうか。【*26】その場ですであることの間違いは指摘できても、そこに存在していないものとの関連性を見い出せるのは特殊能力っていうか。えーと、うまく言えないな……。



それについて、鈴木さん何かありますか？



いいこと言ってるのにこの人の話、時々よくわかんない(笑)



つまり僕は鈴木店長を天才だ、と言いたいわけです。

(次号へ続く。*注釈説明は最終回に入ります。)

猿 のでどころ

第32回 景文館書店・荻野

本を紹介したいけど本の内容を紹介したいわけじゃない。みたいな気持ち、ないですかね…。

もちろん「内容紹介」にもいろいろあって、目次、あらすじ、感想、どんな人におすすめか、とか…最適解もそれぞれ。その紹介文が魅力的で、じぶんの関心領域に引っかかってくるキーワードが含まれていたりすれば読みたくなる。その時すぐに読まなくても記憶に残っていつか読む。そうならば、最終的に読んでもらうことが目的だから、「内容を紹介したいわけじゃない」みたいな気持ちがなんなのか、言ってる僕自身よくわかんないですけど…。

基本的な書誌情報を開示しておくことは大切だと思います。著者名、ISBN、価格、発行年月日など…。そのことに疑問はない。流通上も、検索上も大切な情報です…あ、いま思ったけど、それって、全部あとからくっつけた情報だ。著者が(たとえば小説の)原稿を書き上げた時に、その原稿はあとで校正・改稿されるにしてもその時点で唯一のものだけど、ISBNとか価格なんてものは未定、という変更可能で、いくら変更したところで原稿内容そのものの価値とは関係がない。

本の奥付けに本の「発行年月日」は印刷される。著者あとがきなんかにも、あとがきを脱稿した日が記されることがある。

でも、その原稿を書き始めた日とか、書き始めた日に着ていた服、書き始めた日の晩御飯のおかず、初日は何ページの何行目まで書いたのか、第二章を書き始めた日がいつとかは本には印刷されない。そんなこと全部本に印刷できないし、それが本に印刷しておくべき重要な情報だと思うわけでもない。出版社の都合もあって決まる発行年月日より、原稿の執筆開始日やその日に書き始めた理由、初日の仕事を切り上げた時の著者の気分、すべて書き上げた日の夜に何をつまみに祝杯をあげたのか、みたいな、本の奥付けに印刷されていない情報の方が、その原稿の誕生にとってより深く結びついた、固有の情報だろう、ということ。

そういう「執筆の内幕」みたいなものを明かせば自動的に本の紹介になってセールスも向上する、と素朴に思っているわけでもない。本を紹介する・されるということ、僕たちは読む前の本について、何が知りたいんだろう。ということをもっと考えている。